

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

4章 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

<1>大学全体

本学は、「学則」(資料4(1)-1 第1条)に定めている基本方針を踏まえ、「敬天愛人」の思想を教育的に捉え直した本学独自の校風および小規模大学の特性を活かし、学生個々の内に秘められた可能性を引き出していくことで経済社会や国際社会の求める人材の育成を図ることを本学の教育目標としている(資料4(1)-2)。

本学は、学則に基づき、「学位規程」(資料4(1)-3)を定めている。学士の授与規程については、「学則」第7章 卒業等(卒業の要件及び学士の学位)第28条の3で、「卒業を認定された者には学士の学位を授与する」と定めている(資料4(1)-1 第28条)。卒業の認定は、「学則」同第28条で、「本学に4年以上在学し、各学部規程に定める授業科目及び単位数を習得した者については教授会の議を経て学長が卒業を認定する」と定めている。

学位授与方針は、学校教育法、大学設置基準等の関連諸法規のもとに、学則、学位規程、学部・学科等の教育研究上の目的に関する規程、履修規程、試験および成績評価規程等の学内諸規程(資料4(1)-4、資料4(1)-5)に基づいて学部・学科ごとに定め、Webサイトで公開している(資料4(1)-6、資料4(1)-7)。学位授与方針の中で、「学部教授会において厳正な卒業判定を行い、合格者に学位を授与する」ことを定めている。

卒業するまでに身につける資質は人格教育である「敬天愛人」の精神で、身につける能力は学部・学科ごとにWebサイトで公開している(資料4(1)-8、資料4(1)-9)。

<2>経済学部

経済学部の教育目標は、「経済学部規程」第3条(人材養成の目的)に、「(1)経済学科では、経済学に関する幅広い知識を習得し、実社会で応用できる能力及び国際協調の精神を持って、広く社会に貢献する人材を育成することを目的とする。」と定めている(資料4(1)-4 第3条)。この目的を達成するため、学位授与方針を、「設置されたコースごとの専門教育課程に則り、所定の科目を履修・修得したものに対して卒業認定し、学士(経済学)を授与する。」と定めている(資料4(1)-3)。

経済学科は内外の経済事情を広く学び、経済学的思考力と豊かな人間性を身に付け、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的としている。この教育目的を達成するため設置されたコースごとの専門教育課程に則り、所定の科目を履修・修得したものに対して、学士(経済学)を授与する。具体的には卒業までに必要な学士力として次の4点とする。①経済学的思考力(経済の仕組みを体系的に理解し、経済の現状・動態を実証的に捉える手法を習得し、経済政策の効果などを適切に判断する能力)②教養と良識(人文科学や自然科学も含めた幅広い教養を深め、経済学の知識を社会の発展に生かすことのできる

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

良識) ③社会問題への関心と創造力(社会生活やビジネスの現場で直面する未知の課題に立ち向かう、旺盛な意欲と創造力) ④自己表現力とコミュニケーション能力(社会の発展に貢献するため求められるコミュニケーション能力と自己表現力)(資料4(1)-6)。

経営学科は2013年4月に開設したが、その教育目標は「経営学に関する幅広い知識を修得し、実践的なマネジメント能力及びグローバルな視野を身につけ、広く社会に必要とされる人材を養成すること」と定めている(資料4(1)-4)。この目的を達成するため、学位授与方針を「社会人として必要な一般的教養を学び、企業人として必須である経営学の基本的な知識と考え方、企業人としての専門性を高めるためにコースごとに設置された関連諸分野の知識と考え方を学び、さらには企業現場での実習を通して実践的な対応力などを身につけることを考慮して配置された所定の科目の履修・修得という要件を満たした場合に、学士(経営学)を授与する。」と定めている(資料4(1)-3、4(1)-6)。

<3>国際学部

国際学部の教育目標は、「国際学部規程」第2条の2(人材養成の目的)に、「国際学科は、幅広い教養とグローバルな視野を持ち、地球上の平和を希求する国際人であると同時に地域社会に貢献する人材を養成することを目的とする。」「2 こども学科は、国際学の幅広い教養を基礎にし、こどもへの深い理解と慈愛に満ちた人材を育成することを目的とする。」と明記している(資料4(1)-5)。

国際学部の学位授与方針は、「学則」第5章(授業科目・単位・期間及び履修方法等)、第6章(単位の認定等)、第7章卒業等(卒業要件及び学士の学位)の諸規程(資料4(1)-1)に基づき、本学に4年以上在学し教授会の議を経て卒業を認定された者に「学位規程」が定める学士の学位を授与し、「学位規程」には、国際学科を卒業した者には「学士(国際学)」を、こども学科を卒業した者には「学士(こども学)」を授与すると定めている(資料4(1)-3)。

国際学科では、卒業までに身につけるべき学士力として、次の4点を定めている。①国際社会を理解する力：世界の諸地域や地球環境の現状を学び、国際社会の諸問題について考える力を身につける。世界には多様な価値観や文化が存在している。異文化への理解を深め、他者と共に平和に生きる大切さを学ぶ。世界の中の日本を理解し、21世紀をより良く生きるための国際教養を身につける。②高いコミュニケーション能力：日本語による表現力、英語を中心とする外国語および情報技術の運用能力を高め、他者との豊かなコミュニケーションの実践力を身につける。③変化する現代を生きぬく力：体験や実習型授業を通して、実社会の営みに対する洞察力を育て、21世紀を生きる職業人に必要な知識・技能・倫理の基礎を身につける。④グローバル化する地域社会に貢献する力：急速な変化を被る地域社会のなかで、①②③の専門性を生かし、課題の発見・分析・解決に向けた実践力を身につける(資料4(1)-7)。

また、こども学科で卒業までに身につける力として、次の4点を定めている。①こどもを総合的に理解し、教育する力：こどもの成長・発達、教育方法等について、専門的知識

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

や技能を学び、「こどもの教育」についての理解を深め、教育の実践力を身につける。さらに、教育者としての資質を磨き、教員に必要な知識と理論・実技を修得する。②豊かなコミュニケーション能力：グローバル化社会に対応するコミュニケーション能力を培い、とりわけこどもに外国語活動としての英語の指導ができる力を身につける。③国際理解を深め、共生できる力：「こども」をとりまく環境および国際社会への理解を深め、多様な価値観や文化が存在することを認めて、他者と共生できる力を培う。④実践的活動を通して地域に貢献できる力：実践的活動を通して、体験から得た経験や知識・技能を教育や社会に生かし、問題解決や交流に貢献できる実践力を身につける（資料4(1)－7）。

（2）教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

< 1 > 大学全体

本学では、学位授与方針と同様に、教育目標に基づく学位規程および学部規程により、教育課程の編成・実施方針を学部・学科ごとに定め、Webサイトで広く社会に向けて発信している（資料4(1)－10、4(1)－11）。また、学生に対しては、Webサイト以外にも、入学から卒業に至るまでの様々な段階において周知徹底を図っている。「敬天愛人講座」等、教育目標に基づく全学共通の教育課程は、2009年度に設置された大学教務部委員会で審議を行い、学部教授会の議を経て決定される（資料4(1)－12）。

本学は、単位制、セメスター制を採用している。科目区分、必修・選択必修・選択の別、単位数、配当年次、卒業要件単位等については、両学部とも、2012年度までは『授業計画書』で明示していたが、2013年度からは、教育課程およびカリキュラム表を学部別の『キャンパスライフ』（資料4(1)－13、4(1)－14）、授業科目を『授業計画書』（資料4(1)－15）およびそのWeb版シラバス（資料4(1)－16、4(1)－17）で説明している。

< 2 > 経済学部

経済学部は、教育目標に基づいた教育課程の編成・実施方針を、「経済学部規程」第4条で、「本学部経済学科及び経営学科の教育課程は、学部共通科目、経済学科専門科目、経営学科専門科目、展開科目、自由選択科目、教職及び教科に関する科目により編成する。」とし、「(1) 学部共通科目には、基礎科目、言語科目A、言語科目B、教養科目、情報科目、キャリア科目、演習科目を置く。(2) 経済学科専門科目には、基本科目A、基本科目B、公共経済コース科目、進路支援科目、金融・情報コース科目、進路支援科目、現代日本経済コース科目、進路支援科目、展開科目、自由選択科目を置く。(3) 経営学科専門科目には、基本科目A、基本科目B、アジアビジネスコース科目、企業経営・会計コース科目、スポーツビジネスコース科目、展開科目、自由選択科目を置く。(4) ライセンスプログラム、教職及び教科に関する科目を置く。」と定めている（資料4(1)－4 第4条）。

< 3 > 国際学部

国際学部は、教育目標に沿った学位授与方針を掲げ、その目的を実施するために多様な科目を配置し、実践的な教育を推奨している。国際学部の教育目標に基づいた教育課程の

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

編成方針は、「国際学部規程」第3条で、「本学部国際学科の教育課程は基礎科目、外国語科目、情報科目、専門科目、自由選択科目により編成する」と定めている。また第3条の2に「こども学科の教育課程は基礎科目及び専門科目とし、基礎科目を学部共通基礎科目と学科基礎科目に、専門科目を学部発展科目と学科専門科目、専門研究・演習科目、教職科目に分類し、相互に連携する体系的な教育課程を編成する」と定めている（資料4(1)－5第3条）。

（3）教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

<1>大学全体

本学では、教育目標に基づく学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は学部教授会で審議・了承され、この結果は、大学評議会で各部署の役職にある教職員に周知される。

専任教員に対しては、新年度開始時に、両学部の『キャンパスライフ』『授業計画書』を配付し、周知を図っている。『授業計画書』は、2012年度まで学部別に編集されてきたが、2013年度からは、教育目標に基づく学位授与方針、教育課程の編成・実施方針については学部別の『キャンパスライフ』に掲載し、『授業計画書』は授業科目の説明のみとして大学全体で1冊に統合した。非常勤講師に対しては、新年度開始時に、両学部の『キャンパスライフ』および資料「教務に関するご案内」（資料4(1)－18）を配布し、本学の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について周知し、理解を促している。

学生に対しては、新学期開始前（2回／年）に、大学教務部委員会・学部教務委員会および修学支援室主催で学部・学科別の履修ガイダンスを開催し、『キャンパスライフ』および資料を配布・説明して周知徹底を図っている。特に、新入生ガイダンスは学部・学科別に実施し、ガイダンス資料（資料4(1)－19、4(1)－20）、『キャンパスライフ』『授業計画書』（1年次用授業科目掲載分のみ）等の配布により説明し、その後に新入生の質問に教職員が個別に対応する。このために全教員の出席を義務づけているが、これは、自分の所属する学部・学科の教員と親しく接する機会を作るという副次的な効果もある。保護者に対しては、入学式、父母懇談会、修学相談会等において教育方針に関する説明を行っている。

大学全体、学部・学科の教育目標、教育課程の概要と特色についての社会への周知は、Webサイトによる発信以外に、毎年発行される『大学案内』等の大学の広報紙、入試説明会やオープンキャンパス時の配布資料等でも紹介し、理解を得られるよう努めている。

<2>経済学部

経済学部では、『キャンパスライフ 経済学部』（資料4(1)－13）の「Ⅱ履修要項」の「教育課程」で、教育課程の編成方針と概要、学科ごとのコースの概要と教育目標、科目区分および卒業要件単位略図、学科ごとの卒業要件概念図、教育課程の具体的履修方法、履修方法の概要、単位の認定等を明記している。後述するように、入学年度の違いにより教育課程に多少の違いがあるため、入学年度別に分けて説明し、科目名変更一覧も明記してい

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

る。「Ⅱ履修要項」の「カリキュラム表」では、入学年度別・学科別（2013年度のみ）カリキュラムを掲げている。また、「Ⅲ教職課程」では教育職員免許状取得のための課程について、「Ⅳ資料編」では、学則等規則として、学則（抄）、経済学部規程、学生心得、定期試験に関する注意、授業の公欠に関する取り扱い、個人情報保護方針について明記している。

<3>国際学部

国際学部では、『キャンパスライフ 国際学部』（資料4(1)－14）の「Ⅱ履修要項」の「教育課程」で、本学部の歩みと教育目標、教育課程、履修内容、特色ある教育、取得できる教育職員免許状の種類その他、履修の具体的方法、試験、単位互換制度、ライセンス科目等を明記している。また、日本語教員養成講座、地域調査士、社会調査士のための課程も明記している。「Ⅱ履修要項」の「カリキュラム表」では、入学年度別・学科別カリキュラム、カリキュラム新旧対照表を掲げている。なお、「Ⅲ教職課程」および「Ⅳ資料編」は、前述した経済学部と同様であるため記述を略す。

（4）教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

<1>大学全体

本学では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について、学部ごとに検証を行ってきたが、2013年5月に、学長補佐を中心に、両学部長、両学科長、教務部長、修学支援室長、同室長補佐から構成される「教学システム改革推進会議」を設立し、月1回の定例会議で、大学全体の教育目標、教育課程の編成・実施方針の適切性について検証を行い、改革に向けた検討を続けている（資料4(1)－21）。

本学では、また、「学生による授業評価」によっても定期的な検証を行っている（演習科目や少人数の科目を除く）。本評価は、キャンパス統合（2009年度）以前は学部別に実施し、2010年度以降は両学部で、前期・後期、2011年度、2012年度は後期、2013年度は前期・後期に実施した（前期339科目・後期348科目）。実施後は学部教務委員会および大学教務部委員会で検証を行い、次回の実施方法を決定する。評価の結果（自由記述は除く）は大学全体で1冊にまとめ（資料4(1)－22）、メディアセンターおよび非常勤講師控室に配置して、閲覧可能とする。科目担当の教員には、KCNシステムにより、自由記述も含めた科目ごとの結果を速やかに通知している。KCNシステムによる閲覧方法は、学部教授会で資料（資料4(1)－23）を配布し説明している。2013年度前期からは、教員ごとに授業評価を踏まえた「授業改善報告書」（資料4(1)－24）の提出を義務づけている。

<2>経済学部

経済学部は、学生の学習意欲を醸成し、教育効果を高めるという目的のために検証を続けた結果、以下に述べるようなカリキュラム変更を行ってきた。

2010年度に、学習到達点と学習指針を明示することで学生の学習意欲の向上に繋げることを目指し、経済系・経営系にコースを導入した。経済系は「日本・世界経済」「環境・福

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

社経済」「公共サービス」「金融・証券」の4コース、経営系は「経営・会計」「ビジネス情報」「現代産業」の3コースであったが、スポーツビジネスに対する関心の高まりを受け、2011年度に「スポーツビジネス」を追加し4コースとした。2012年度には経済系を経済専攻、経営系を現代マネジメント専攻とし、学生の幅広いニーズに応えると同時に、学問分野をより深めることのできるカリキュラムとした。その際、「日本・世界経済」を「現代日本経済」、「公共サービス」を「公共経済」に名称変更した。これに伴い、「環境・福祉」は「公共経済」にほぼ組み入れられた。また、「金融・証券」は情報科目を加え、「金融・情報」に変更した。

経済学科では、2013年4月経営学科が分離され、新経済学科としてスタートするに際し、これまでの教育目標、学位授与方針等を詳細に検討し、経済学科の教育目標を定めた。この方針の下、初年次教育から専門導入教育、コース科目へ進む段階的学習かつ体系的な教育課程を採用し、さらに進路支援講座を設置して、学生の学習効果の向上を図っている。

経営学科は、開設に当たり、現代マネジメント専攻の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について検証を行い、経営学科の教育目標、教育目標を達成するための学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を定めるに至った。これにより、人材養成目標に合わせたコース設定、学ぶ順序を考慮した科目配置、不要となった科目の廃止、専門性を高めるための科目の新設等により、学生の利便性を大幅に向上させた。

< 3 > 国際学部

国際学部では、日本社会の変化と時代のニーズに応じて、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について、学部全体および専攻ごとの検証を行い、学部教授会の承認を得て以下のような改変をしてきた。

国際学専攻では2008年度にカリキュラム改革委員会を設立し、2009年度に「社会・政治」「国際ビジネス」「英語・英米文化」の3コース制に対応した2009年度カリキュラムを構築した。コース制とはいえ、履修科目や取得単位に縛りはない。2009年度カリキュラムでは、建学の精神を学ぶ諸科目と初年次教育の充実をはかるとともに、地元千葉を学ぶ科目等を追加した（資料4(1)-14 p.104~109）。2011年4月にこども学科を設置するに当たり、再度、カリキュラム改革委員会を設立し、2011年度カリキュラムを構築した。その際、「社会・政治」を高校生にもなじみのある「国際理解」と改称した。2011年度カリキュラムでは、各コースを特徴づける専門科目を8つの科目分野（フィールド）にまとめ、フィールドごとに体系的な知識を段階的に学ぶことができるよう、導入科目（1年次）・基本科目（2年次）・発展科目（3年次）に分けて明示した。このとき、国際学部として英語教育の重要性を確認し、週2回開講するレベル別クラスにし、TOEIC IPテストを導入した。また、増加してきた留学生の教育を充実させるため、日本語教育、日本理解教育の科目を増設した（資料4(1)-14 p.94~99）。その後も、キャンパス統合による両学部科目の共通化の機会に若干の修正を加え、学科の特徴でもある多様な学びを希望する学生のために、

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

コースを「学びの専門分野」と改め、科目選択における柔軟性を増した2013年度カリキュラムを再構築した。

こども学科は、グローバル化の進展により、将来、海外においても国内においても、地球規模での活躍が期待されるこどもの教育にかかわる指導をさらに充実させる必要性から、2011年度に地域こども専攻を改組した学科である。学科改組にあたり、国際学部の特質を活かしグローバルな視点で編成される教育課程とするために、国際学に関連する教科およびこどもに関連する教科を融合し、直接こどもの理解・成長（教育）に役立つ教科・諸活動を必修科目に設定した。現在も、学生の基礎学力や資質等の状況に対応し、社会情勢の変化を考慮した教育課程の改訂をめざして検討を続けている。

2. 点検・評価

●基準の充足状況

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について、教育目標に基づいて学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を明示する、この方針を大学構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表する、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については定期的に検証を行うという方針のもと、本学ではこれを実現しており、同基準を概ね充足している。

①効果が上がっている事項

<1>大学全体

・建学の精神「敬天愛人」に基づく大学全体の教育目標が明確で、学内の教職員や学生に対してだけでなく、その詳細な内容を大学概要や「敬天愛人文庫」（資料4(1)－25）をはじめとするWebサイト等により社会に公表し、周知していることは評価できる。

・教育目標に基づき、大学全体の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証を行う目的で、「教学システム改革推進会議」を立ち上げ、検討を開始したことは評価できる。

<2>経済学部

・経済学科では、コース制導入の目的が学生に周知され浸透してきたことで、卒業後の将来像とそれのための学習目標を学生自らたてることができるようになった。例えば、公務員を志望する学生が、公共サービスコースの科目により実施するインターシップに積極的に参加するようになった。

・経営学科は2013年4月に開設したばかりで、現段階では学科としての点検・評価は行えない。経営学科の原型である経済学科現代マネジメント専攻における効果としては、学生の目的意識を向上させたコース改編、新設科目への学生の関心の向上の2点が挙げられる。

<3>国際学部

・国際学部で行われているボランティア活動の状況をWebサイトで随時公開することにより学生への周知が浸透し、学科を問わず、積極的に取りくむ学生が増えてきた。

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

- ・国際学科では、2013年度から「学びの3分野」としたことにより、多様な学びを相互に関連させるなかで深めさせ、学生の要望に応えることが可能になった。
- ・こども学科では、2011年度より「こども学科」として独立したことで、「こどもの教育」を中心に学ぶ学科であることがより明確に周知されるとともに、「小学校教員1種免許」を取得するための教職課程の充実が図られた。

②改善すべき事項

<1>大学全体

- ・学部・学科ごとの学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は明確であるが、2009年度までキャンパスを異にしていた関係上、大学全体としての方向性とまとまりが曖昧である。それぞれを明確に位置づけ、学部・学科の学位授与方針や教育課程の編成・実施方針につながる流れを確立する必要がある。

<2>経済学部

- ・経済学科ではコースを特徴づける科目に対する履修率が高くない。学生への周知が不徹底であることや時間割の問題であることが判明したため、今後、改善する必要がある。

<3>国際学部

- ・カリキュラムの改善および新学科立ち上げなどを行って来た反面、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の内容表現には、重複する箇所や、一部にやや不十分なものがあった。学生および教職員にとって、さらに分かりやすく明瞭な指針を策定する必要がある。
- ・国際学科では、学生の学習意欲を高めるために掲げた学びの3分野について、入学から卒業後の進路に至るまでのモデルとなるような学修の道筋がそれほど明確には提示されていない。
- ・こども学科では、学生の多くが教員を目指している現実を踏まえ、国際的視野の充実を図ることに加え、教員養成の面からの充実に向けた学科内の共通理解が必要である。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

<1>大学全体

- ・今後も建学の精神に基づく教育目標を達成できるよう、「敬天愛人講座」の充実を図る。
- ・今後も「教学システム改革推進会議」の定例開催を継続し、検証を継続する。また、本会議の検討結果は教授会や評議会等で報告し、教職員に対して周知する。

<2>経済学部

- ・経済学科では、コース制導入による教育効果をさらにあげるべく検証を進めて各コースの独自性を打ち出し、2014年度開始時には、学生にとってさらに分かりやすい将来像と学習目標の提示を行う。

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

・経営学科では、各コースの特色を全ての学生に分かりやすく伝えることにより、学生の目的意識をより向上させる。また、コース科目の検証も行い、学生の関心がいっそう高まる方向へ科目の内容を高めていく。

< 3 > 国際学部

・今後も国際学部のさまざまな活動状況を Web サイトにより公開し、学生だけでなく社会に対してもさらに広く周知していく。

・国際学科では、幅広い教養としての多様な学びが散漫に陥らないように、これまで以上にガイダンス時における 3 つの専門分野の関連性に対する理解を徹底する。また、入学当初の「1 年基礎演習」において、教員がきめ細かい履修指導を行っていく。

・こども学科では、教育や教職に対して強い関心と意欲を持つ学生のニーズを踏まえ、教育についての学びにおいて、理論に加え実践的な体験の機会をさらに充実させていく。

②改善すべき事項

< 1 > 大学全体

・2013 年 9 月 10 日開催の「教学システム改革推進会議」において、大学全体としての学位授与方針を検討し、各学部教授会さらに各学科会議で学部・学科の学位授与方針の再検討・策定を行う段取りを決めた（資料 4(1)－21）。教育課程の編成・実施方針についても同様にを行うことで、2013 年度中に、大学全体、学部、学科間の流れを明確化する。

< 2 > 経済学部

・経済学科の特色ある科目や進路支援講座の履修率を高めるため、2014 年度は、ガイダンス時における学生への告示を徹底し、時間割に工夫をこらす。

< 3 > 国際学部

・「教学システム改革推進会議」の作業日程と並行して、両学科会議において学位授与方針と教育課程の編成・実施方針を再検討し、カリキュラムマップ等を 2013 年度中に策定する。

・国際学科では、2013 年度中に、学びの 3 分野における入学から卒業後の進路に至る道筋について資格取得も含めて完成し、2014 年度以降、学生への周知を図っていく。

・こども学科では、教育や教職に対する高いニーズに対応できるように、教職課程の編成、実施方法ならびに内容の展開も含めた見直しを図り、2014 年度以降、学生への周知を図る。

4. 根拠資料

4(1)－1 敬愛大学学則（既出 資料 1－1）

4(1)－2 敬愛大学ホームページ「大学概要」（既出 資料 1－7）

<http://www.u-keiai.ac.jp/outline/spirit/index.html>

4(1)－3 敬愛大学学位規程

4(1)－4 敬愛大学経済学部規程（既出 資料 1－2）

4(1)－5 敬愛大学国際学部規程（既出 資料 1－3）

4. 教育内容・方法・成果

【1】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

- 4(1)－6 敬愛大学ホームページ「経済学部ディプロマ・ポリシー」(既出 資料1－8)
<http://www.u-keiai.ac.jp/economics/diploma/index.html>
- 4(1)－7 敬愛大学ホームページ「国際学部ディプロマ・ポリシー」(既出 資料1－11)
<http://www.u-keiai.ac.jp/international/diploma/index.html>
- 4(1)－8 敬愛大学ホームページ「経済学部」
<http://www.u-keiai.ac.jp/economics/index.html>
- 4(1)－9 敬愛大学ホームページ「国際学部」
<http://www.u-keiai.ac.jp/international/index.html>
- 4(1)－10 敬愛大学ホームページ「経済学部カリキュラム・ポリシー」(既出 資料1－9)
http://www.u-keiai.ac.jp/economics/curriculum_p/index.html
- 4(1)－11 敬愛大学ホームページ「国際学部カリキュラム・ポリシー」(既出 資料1－12)
http://www.u-keiai.ac.jp/international/curriculum_p/index.html
- 4(1)－12 敬愛大学教務部委員会規程
- 4(1)－13 CAMPUS LIFE 2013 経済学部
- 4(1)－14 CAMPUS LIFE 2013 国際学部 (既出 資料1－13)
- 4(1)－15 授業計画書 (全学年用) 2013 (既出 資料1－5)
- 4(1)－16 敬愛大学ホームページ「経済学部シラバス」
<http://www.u-keiai.ac.jp/economics/syllabus/index.html>
- 4(1)－17 敬愛大学ホームページ「国際学部シラバス」
<http://www.u-keiai.ac.jp/international/syllabus/index.html>
- 4(1)－18 2013 (平成25) 年度版教務に関するご案内
- 4(1)－19 平成25年度 新入生ガイダンス資料 (経済学部)
- 4(1)－20 平成25年度 新入生ガイダンス資料 (国際学部)
- 4(1)－21 教学システム改革推進会議議事録 (2013年9月10日)
- 4(1)－22 平成25年度前期 授業評価アンケート集計結果 (既出 資料3－12)
- 4(1)－23 授業評価アンケート結果参照について
- 4(1)－24 授業評価改善報告書の回答方法について
- 4(1)－25 敬愛大学ホームページ「メディアセンター 敬天愛人文庫」
<http://www.u-keiai.ac.jp/keiten/index.html>